

微生物検査 (SPF) 項目

		カテ ゴリ ー	発 生 頻 度	動物種		病原性		感 染 時 対 応
				マ ウ ス	ラ ット	マウス ラット	ヒト	
<i>Salmonella</i> spp.	サルモネラ	A	+	○	○	◎	○	×
<i>Corynebacterium kutscheri</i>	ネズミコリネ菌	C	+	○	○	○～△		△
<i>Bordetella bronchiseptica</i>	気管支敗血症菌	C	+		○	△		△
Mouse hepatitis virus	マウス肝炎ウイルス	B	+++	○		◎		×
<i>Mycoplasma pulmonis</i>	肺マイコプラズマ	B	++	○	○	◎		×
Sendai virus	センダイウイルス	B	++	○	○	◎		×
<i>Clostridium piliforme</i>	ティザー菌	C	++	○	○	○～△		△
Sialodacryoadenitis virus	唾液線腺炎ウイルス	C	++		○	○		△
Intestinal protozoa	消化管内原虫	C、E	+～+++	○	○	△		△
Ectoparasits	外部寄生虫	E	+	○	○	×		○
Pinworm	蟯虫	E	+++	○	○	×		○
※Hantavirus	ハンタウイルス	A	+		○	×	◎～△	×
※LCM virus	リンパ球性 脈絡髄膜炎ウイルス	A	+	○		△	◎～△	×
※Ectromelia virus	エクトロメリアウイルス	B	+	○		◎		×

年4回の定期検査を行う(※の項目は年1回)

1. カテゴリー
- A: 人獣共通感染症
- B: 伝染力が強く動物を致死させる恐れがある微生物
- C: 致死させることはないが発病あるいは不顕性感染を起こす微生物
- D: 日和見病原体
- E: 通常は病原性はないが、飼育環境の指標になる微生物

2. 病原性
- ◎: 致死的
- : 発症～生理機能に影響
- △: ごく軽度の感染～日和見感染
- ×: 通常は無影響

3. 感染時対応
- ×: 感染した飼育室の動物はすべて淘汰・処分 (All out) を行う。
- △: 淘汰・処分が望ましいが、微生物種・汚染状況により協議の上対応する。
- : 衛生的な管理を徹底するとともに、必要に応じて駆虫を行う。